

医療安全トピックス TOPICS

Vol.121

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部医療安全課 課長

「患者の咀嚼・嚥下機能に合わせて食種を選択したが、想定していなかった食物が提供された事例」について

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療安全の推進を目的として医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、医療機関から報告された事例の中からテーマを設定し、過去の報告事例と併せて分析を行い、四半期ごとに報告書を作成し公表しています。

本稿では、第62回報告書（2020年9月公表）で取り上げた「患者の咀嚼・嚥下機能に合わせて食種を選択したが、想定していなかった食物が提供された事例」について紹介します。

●患者への食事の提供について

入院施設のある医療機関では、入院している患者の状態に合わせた複数の種類の食事を提供しています。患者の咀嚼・嚥下機能を考慮して、主食の米飯をさまざまな柔らかさの粥にする、主菜・副菜を細かく刻む、とろみをつける、ペースト状にするなど、食事の形態を変更して提供する体制を整えています。また、患者の咀嚼・嚥下機能に合わせた食事は、医師・看護師・言語聴覚士・栄養士など多職種で検討され、患者に合った食事が提供できる体制をとっています。

●本テーマを取り上げたきっかけ

第62回報告書分析対象期間（2020年4月～6

月）に、全粥・一口大とろみ食を提供していた患者の摂取カロリーを上げる際、朝食の設定がパンになっていることに気づかずオーダーしたため意図せず朝食にパンが提供され、食事中に誤嚥・窒息した事例が報告されました。

そこで、事例を遡って検索し分析を行いました。2016年1月～2020年6月に報告された医療事故情報のうち、対象となる事例は7件でした。

●摂食に関する患者の状況

直前の患者の状態と、患者の摂食状況をまとめました。直前の患者の状態では、「精神障害」や「認知症・健忘」など食事摂取の行動に影響のある項目が選択されていました（図表1）。

また、患者の摂食状況では、「嚥下機能の低下」と記載されていた事例が多く、さらに「かきこんで食べる」などの摂食動作の問題がありました（図表2）。

●発生段階

7件の事例を発生段階で分類すると、食事オーダー時の事例が5件と多く、次の段落で詳細を紹介します。調理時の事例は2件で、軟菜きざみ食の指示に対し、9cmの長さの牛肉が入った食事が提供されたなど、食事指示と調理内容が合っていない事例でした（図表3）。